

桐朋学園大学大学院 修士課程

修了演奏発表

<大学院修士課程2年>

弦楽器 (VI)

2019年1月29日(火) 16:30開演 (16:20開場)

桐朋学園大学 仙川キャンパス S402教室

【16時30分頃～】

土岐 祐奈

共演者：小森谷 裕子

Beethoven: Sonata for violin and piano No.6 Op.30-1 A major

Stravinsky: Divertimento

《ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第6番 イ長調 作品30-1》

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン Ludwig van Beethoven (1770～1827)のヴァイオリン・ソナタの創作期においては、極めて特徴的だと感じられる。10曲中9曲が1797年～1803年までの6年間に作曲、初演されている。この分野での最高傑作と言われるヴァイオリン・ソナタ第9番《クロイツェル》作品47がこの集中的創作期の末尾を飾り、最後の第10番作品96は第9番からほぼ10年の空白をおいて1812年に作曲された。ヴァイオリン・ソナタ作品30の3曲はいずれも1801～1802年にかけて書かれた。3曲が完成した1802年10月には、かの有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれており、彼の耳の病から自殺まで考えた精神的危機の時代に当たっている。彼は遺書の中で「芸術に対する使命」からその危機を克服したとも書いており、その意味で、いよいよベートーヴェンが充実した中期にさしかかろうという直前の時期に書かれたことになる。

この作品は、作品30の中ではやや目立たない存在ではあるが、しっとりと落ち着いた楽想が印象的である。明るく繊細な叙情、書法の自由さ、そしてヴァイオリンとピアノ両楽器の独立性の強化などに確実な進歩が感じられる作品である。当初、第3楽章には現在第9番《クロイツェル》に使われている華やかな「プレスト」が使われる予定だったが、第1、第2楽章とのバランスを考え、今の変奏曲に差し替えたと言われている。

第1楽章 Allegro

第1楽章は非常に古典的なソナタ形式で書かれており、A durの優美な第1主題と、属調E durで登場する、愛と憧れに満ちた歌謡的な第2主題によって展開される。

第2楽章 Adagio molto espressivo

この楽章では、ベートーヴェンの高貴な叙情性が存分に発揮されている。複合三部形式の緩徐楽章で、第1楽章がA durであるのに対し、この楽章が下属調のD durで書かれているのも非常に古典的なスタイルを取っていると見られる。

第3楽章 Allegretto con Variazioni

いかにも心楽しい軽快な表情を持つA durの主題を元に、6つの変奏曲とコーダが繰り返される。

《ストラヴィンスキー/ドゥシュキン編：ディベルティメント》

ロシアの作曲家イーゴル・ストラヴィンスキー Igor Fyodorovitch Stravinsky (1882～1971)は、生涯に約110曲の作品、そして15曲の編曲を残しており、極めて多様なスタイルで作曲した。

このディベルティメントの原曲となったバレエ音楽《妖精の接吻》は、《エディプス王》や《ミューズを率いるアポロ》に次いで書かれた＜新古典主義＞時代の1928年に書かれ、その後モダン・バレエの生みの親である女流舞踊家イダ・ルビンシュタインの依頼で演奏会用組曲へ組み替え、1934年に完成した。イダの片腕であった美術家アレクサンドル・ブノワから「チャイコフスキーの詩想にインスピレーションを得

た音楽」を提案された。偶然にも 1928 年はチャイコフスキーの没後 35 周年であり、ストラヴィンスキーは尊敬するこの大作曲家のピアノ曲や歌曲の中から好みの旋律を抽出し、曲趣や楽器編成まで倣おうとした一種の擬作を作ったのである。スコアの表紙にはチャイコフスキーへの献辞が書かれている。台本はストラヴィンスキーが、アンデルセンの童話『氷姫』の舞台設定をスイスにして 1 幕 4 場のバレエ音楽を書いた。大まかなあらすじは以下のようになっている。

第 1 場：プロローグ 嵐の中の子守唄 吹雪の中を幼い子供を連れた母親がさまよい、子供は妖精の従者にさらわれて妖精の口付けを受ける。

第 2 場：村の祭り 約 20 年後、ある農夫に育てられて成長した若者とその婚約者が村人たちと音楽を楽しんでいると、ジプシーを装った妖精が若者に近づき、占いをして彼の愛の幸せを予言する。

第 3 場：水車場で 婚約者と若者が逢瀬し、彼女が花嫁のベールを取りに去ると、花嫁に扮した妖精が現れる。愛を語る若者の前で妖精がベールを脱ぎ、若者は仰天するが妖精の魔力に抗うことができず、永遠の世界へ連れ去られる。

第 4 場：エピローグ 時と空間を越えた子守唄の国 天空で妖精は若者に 2 度目の口付けを与える。

今日演奏するディベルティメントは、ストラヴィンスキーと同時期を生きたヴァイオリニストの S. Dushkin によってヴァイオリンとピアノに編曲されたもので、I Sinfonia, II Danses Suisses, III Scherzo, IV Pas de deux の 4 つの楽章から構成されている。

<ご来場の際のお願い>

音楽部門の警備室にて、お名前を確認できるものをご提示頂きます。

ご提示のない場合や定員を超過した場合は入場をご遠慮頂く場合もございます。

<試験のため、以下の諸点についてご注意くださいたくお願いいたします>

(1) 写真・ビデオ等の撮影・花束贈呈・演奏中の入・退場

はご遠慮ください。

※演奏者交代時等演奏の合間の入・退場は係員の指示に従ってください。

(2) 小学生低学年以下のお子様の入場はご遠慮ください。

(3) 会場内では携帯電話およびアラーム時計等の電源をお切りください。

(4) 採点員席への立ち入りは固くお断りします。

* 曲目等詳しいご案内は こちらまで *

<http://www.tohomusic.ac.jp/college/graduate/concert.html>

— ご来場をお待ちしております —

桐朋学園大学大学院

電話 042-444-7055 (調布キャンパス代表)

FAX 042-444-7056